

3-3 東洋史

研究・教育活動の概要と特色

本研究室の特色は、1.中国思想・文学という他専攻分野との連携を重視する。2.教員各3名がすべて中国史研究者である。3.学生・院生に対する指導では、特に中国古典文（漢文）の読解を重視する、の3点に要約される。1は本研究室の初代教授岡崎文夫以来の伝統を継承したものである。中国の人と文化の理解に至るには、歴史であれ思想であれ文学であれ、単一の分野からの接近だけではおのずから限界があるとした、岡崎および武内義雄（経学）・青木正児（文学）の立場は、三者の師内藤湖南のそれを継承したものにはかならないが、今日にいたっていよいよその斬新さが際立つ。

両専攻分野との研究活動等における交流が、中国史自体を裨益するとみなし、本研究室はかかる伝統の維持につとめている。具体的にいえば、三専攻分野共同で編集する雑誌『集刊東洋学』（年二回刊行）は、近い将来百号を数える。2.は1.の中国研究を中心課題とする伝統とも密接に関連するが、一方では最大三名しか許容されない教員スタッフを以て学界における特色ある地位を確保するためには、限られた人員を中国史分野に集中すべきであるという、現実的判断の結果でもある。現在では熊本（宋元史）、教授川合（魏晋南北朝隋唐史）、講師大野（明清史）によって、前近代中国史のほぼ全体をカバーしている。3.は具体的には演習の重視である。演習を卒論・修論執筆のための、訓練の場と位置づけ、複数報告者による訳注稿の提示、これを基礎とした報告者相互の議論など、様々な方法を試みつつ、史料読解力、論証能力、表現力の涵養を目指している。因みに授業自体は中国古典文解説を中心とするが、学生・院生の研究課題設定はその自主的判断に委ねている。本研究室出身者のなかには、渤海を中心とした環日本海史あるいは清代モンゴル史研究を選択して成果をあげ、それぞれ大学に職を得ているものもいる。

I 組織

1 教員（2008年4月現在）

教授：2

准教授：0

講師：1

助手：1（2008年6月より）

教授：熊本 崇、川合 安

講師：大野晃嗣

助手：小尾孝夫

2 在学生数（2008年4月現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博 士 後期	大学院 研究生
11	0	2	4	1

3 修了生・卒業生数（2004～2008年度）

年 度	学部卒業者	大学院博士課 程前期修了者	大学院博士課 程後期修了者 (満期退学 者)	博士学位 授与者
04	6	2	0	1
05	3	2	1	0
06	5	2	1	1
07	2	2	2	1
08	0	0	0	0
計	16	8	4	3

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2004～2008年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年 度	課程博士授与件 数	論文博士授与件 数	計
04	1	0	1
05	0	0	0
06	1	0	1
07	1	0	1
08	0	0	0
計	3	0	3

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

渡辺健哉、2004年度、『元大都形成史研究』

審査委員：教授・熊本崇(主査)、教授・川合安、教授・三浦秀一、講師・大野、
教授・新宮学（山形大学）

佐藤賢、2006年度、『北魏における政権の形成とその担い手たち』

審査委員：教授・川合安(主査)、教授・熊本崇、教授・佐竹保子、講師・大野
晃嗣)

江村知朗、2007年度、『春秋時代の祖先観念に関する研究』

審査委員：教授・川合安(主査)、教授・熊本崇、教授・佐竹保子、講師・大野
晃嗣、教授・谷口満（東北学院大学）

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	学会誌	紀要	講座等機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
'04	5	0	0	0	0	5
'05	4	0	1	0	0	5
'06	5	1	0	0	1	7
'07	2	0	0	0	2	4
'08	2	0	0	0	0	2

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	2	7	4	0	13
05	1	4	0	1	6
06	2	7	0	0	9
07	0	5	0	1	6
08	0	5	0	0	5

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

- 江村知朗「周初齊都「營丘」の歴史地理研究」，東北史学会『歴史』103 輯，2004 年.
- 江村知朗「書評・高木智見『先秦の社会と思想』」，東北史学会『歴史』104 輯，2005 年.
- 小尾孝夫「劉宋孝武帝の対州鎮政策と中央軍改革」，中国文史哲研究会『集刊東洋学』91 号，2004 年.
- 小尾孝夫「劉宋以後北府兵軍事地位考論——以東晋末至劉宋初晋陵郡域上無実土僑郡鼎的掌控方式為考察中心」，『南京曉庄学院学報』第 5 期（総第 85 期），2006 年.
- 佐藤 賢「北魏内某官制度の考察」，東洋文庫『東洋学報』86 卷 1 号，2004 年.
- 佐藤 賢「崔浩誅殺の背景」，東北史学会『歴史』103 輯，2004 年.
- 佐藤 賢「「配衣」の語義」，中国文史哲研究会『集刊東洋学』93 号，2005 年.
- 佐藤 賢「鮮卑拓跋氏の南下とトナカイ—北魏王朝前史の研究—」，財団法人三島海雲記念財団『平成 17 年度受贈者研究報告書』第 43 号，2006 年.
- 佐藤 賢「もうひとつの漢魏交替—北魏道武帝における『魏』号制定問題をめぐって—」，東方学会『東方学』第 113 輯，2007 年 1 月.
- 清水浩一郎「南宋高宗朝の給事中と中書舎人—呂中『皇朝中興大事記』「再除給舎」をてがかりに—」，東北史学会『歴史』106 輯，2006 年.
- 清水浩一郎「南宋告身の書式について」，東北史学会『歴史』108 輯，2007 年.
- 高橋 亨「明代庶吉士制の成立とその背景—永樂二年科庶吉士を中心として—」，中国文史哲研究会『集刊東洋学』96 号，2006 年.
- 水盛涼一「太平天国後期の政治構造の再検討」，東北史学会『歴史』105 輯，2005 年.
- 水盛涼一「太平天国後期官僚制度再考——一八六〇年の官員人事制度再編を中心として—」，中国文史哲研究会『集刊東洋学』95 号，2006 年.
- 水盛涼一「曾國藩和他的親信史家 從清末到民初太平天国起源伝說的形成過程」，王継平・李大劍主編『曾國藩与近代中国』岳麓書社，2007 年.
- 水盛涼一「曾國藩和他的親信史家 從清末到民初太平天国起源伝說的形成過程」，湘潭大学曾國藩研究中心主弁・王継平主編『曾國藩研究』第一輯，湖南人民出

版社, 2007年6月.

水盛涼一「書評・太田出・佐藤仁史編『太湖流域社会の歴史学的研究——地方文献と現地調査からのアプローチ』」, 中国文史哲研究会『集刊東洋学』第99号, 2008年5月.

三田辰彦「東晋の琅邪王と皇位継承」, 中国文史哲研究会『集刊東洋学』96号, 2006年.

三田辰彦「西晋後期の皇位継承問題」, 中国文史哲研究会『集刊東洋学』99号, 2008年.

渡辺健哉「元の大都形成過程における至元20年令の意義」, 中国文史哲研究『集刊東洋学』91号, 2004年.

渡邊英幸「晋文公の諸国遍歴説話とその背景」, 東洋文庫『東洋学報』85巻4号, 2004年.

渡邊英幸「伝統的〈中華〉の多様性と「中華民族多元一体」論」, 瀬川昌久『「中国研究」の可能性と課題』東北アジア研究シリーズ第6号, 2005年.

渡邊英幸「解説 謎の夏王朝」, 『東北学院大学論集』41号, 2006年3月.

渡邊英幸「秦律の夏と臣邦」東洋史研究会『東洋史研究』第66巻第2号, 2007年9月

(2) 口頭発表

安倍直之「史彌遠専権体制確立過程初探」, 第30回宋代史研究会, 北海道大学, 2004年8月6日.

安倍直之「南宋乾道八年の丞相制導入について」, 東北史学会, 福島大学, 2005年10月2日.

江村知朗「呉国大型墓葬に関する基礎的考察—寧鎮地域・太湖周辺地域の王墓・貴族墓を中心に—」, 東北史学会, 東北大学, 2007年9月30日.

小尾孝夫「略論南徐州無実土僑郡県」第八回中国魏晋南北朝史学会, 四川大学 2004年7月23日.

小尾孝夫「南朝前期の南徐州無実土僑郡県和中央軍」, 江淮地域与六朝歴史学術検討会, 淮陰師範学院, 2004年11月1日.

小尾孝夫「劉宋元嘉八年の南徐州設置和晋陵郡域上無実土僑郡県」, 江蘇省六朝史研究会, 南京師範大学, 2005年11月13日.

小尾孝夫「劉宋以降の北府兵の軍事的地位に関する一考察—東晋末劉宋初期におけ

- る晋陵郡域上無実土僑郡県の掌握方式の検討を中心に一」，東北史学会，弘前大学，2006年10月8日。
- 小尾孝夫「南朝前期における南徐州無実土僑郡県と中央軍」，第57回東北中国学会大会，北海道大学，2008年5月25日。
- 工藤寿晴「金元期における盧龍趙氏について」，東北史学会，東北大学，2004年10月3日。
- 工藤寿晴「遼朝と漢人大族」，第5回遼金西夏史研究会，新潟大学 2005年3月20日。
- 工藤寿晴「遼代藩鎮体制小考—藩鎮由来の官職の変遷から—」，東北史学会，弘前大学，2006年10月8日。
- 工藤寿晴「遼「許從贄墓誌銘考釈」」，白山史学会，東洋大学，2008年6月28日。
- 佐藤 賢「鮮卑拓跋の祖先伝説」，第28回内陸アジア・イスラム研究者集会，中央大学，2004年8月21日。
- 佐藤 賢「南下とトナカイ」，第10回漢魏石刻の会，東北大学，2004年12月18日。
- 佐藤 賢「代国から北魏前期にかけての拓跋氏の婚姻動向」，東北史学会，福島大学，2005年10月2日。
- 佐藤 賢「道武帝期における『魏』号制定問題をめぐって—もうひとつの漢魏交替—」，東北史学会，弘前大学，2006年10月8日。
- 佐藤 賢「もうひとつの漢魏交替—北魏道武帝期における『魏』号制定問題をめぐって—」，中国中世研究者フォーラム，京都教育センター，2006年11月4日。
- 清水浩一郎「南宋告身の書式について」，東北史学会，弘前大学，2006年10月8日。
- 清水浩一郎「南宋高宗擁立始末」，東北史学会，東北大学，2007年9月30日。
- 清水浩一郎「南宋高宗期の「太后」孟氏について」，第34回宋代史研究会夏季合宿，福岡大学，2008年8月19日。
- 高橋 亨「永樂二年の庶吉士選抜についての一考察」，第55回東北中国学会，福島大学，2006年5月28日。
- 高橋 亨「永樂庶吉士制の展開について—古文教習の成立とそのゆくえ—」，東北史学会，東北大学，2007年9月30日。
- 水盛涼一「太平天国後期の政治動向」，第53回東北中国学会，岩手大学，2004年5月30日。

- 水盛涼一「太平天国前後の地方統治」，明清史夏合宿，山形大学，2004年8月2日。
- 水盛涼一「『清史稿』洪秀全伝の誕生」，東北史学会，東北大学，2004年10月3日。
- 水盛涼一「曾國藩和他的親信史家—從清末到民初 太平天国起源傳說的形成過程—」，國際曾國藩學術研討會，湖南省婁底市雙峰縣雙峰賓館會議中心，2006年12月1日。
- 水盛涼一「世紀末浙江における行財政構造の変容——光緒末年の釐金制度改革を中心に」東北史学会，秋田大学，2008年10月5日（予定）。
- 三田辰彦「東晋琅邪王の政治的役割について—皇位継承者の限定化とその成立初期を中心に—」，第55回東北中国学会，福島大学，2006年5月28日。
- 三田辰彦「東晋哀帝と皇統継承問題」，東北史学会，東北大学，2007年9月30日。
- 三田辰彦「『第三皇子』と宋齊の皇位継承」，東北史学会，秋田大学，2008年10月5日（予定）。
- 渡辺建哉「元の大都における宮殿建築の完成」，第53回東北中国学会，岩手大学，2004年5月30日。
- 渡辺建哉「『永楽大典』所引の元史について」，第2回「善本」と「底本」談話会，東北大学，2004年12月18日。
- 渡邊英幸「『春秋公羊伝』の「中国」観念とその特質」，史学会，東京大学，2004年11月14日。
- 渡邊英幸「雲夢睡虎地秦簡にみえる「夏」について」，第10回漢魏石刻の会，東北大学，2004年12月18日。
- 渡邊英幸「資料解説：謎の夏王朝」，東北学院大学オープンリサーチセンター公開座談会，東北学院大学，2005年9月23日。
- 渡邊英幸「戦国王権の国際支配における〈中華〉の言説」，東洋史研究会，京都大学，2005年11月3日。
- 渡邊英幸「夏与臣邦—秦律中的『中華』観念—」，講演会，武漢大学簡帛研究中心，2007年1月25日。
- 渡邊英幸「先秦時代の華夷観念と秦律の『夏』」，第56回東北中国学会，山形大学，2007年5月26日。
- 渡邊英幸「資料解説」，東北学院大学オープンリサーチセンター公開座談会「長江流域出土文字資料研究二十五年」，東北学院大学，2007年10月10日。

3 大学院・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2004年度／PD／採用／1名

2005年度／PD／受け入れ／1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部生等の留学生

2004年度 大学院 計1名 南京大学歴史系（中華人民共和国）

2006年度 大学院 計1名 復旦大学歴史系（中華人民共和国）

2008年度 大学院 計2名 浙江大学歴史系（中華人民共和国）

南開大学歴史系（中華人民共和国）

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
04	0	1	1
05	0	0	0
06	0	0	0
07	1	0	1
08	1	0	1

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	0	0	0

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

なし

7-2 専攻分野出身の高度職業人

計4名

8 客員研究員の受け入れ状況

陳群 中国 淮陰師範学院教師

期間 平成17年3月25日～平成17年7月5日

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

2004～2008年 『集刊東洋学』（専門分野の機関誌）＊、年2回発刊

2004～2008年 『東北大学東洋史論集』（専門分野の機関誌）隔年刊行

＊中国思想・中国文学との共同編集

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005年8月23～25日 唐代史研究会夏期シンポジウム開催 事務局

2008年8月 明清夏合宿 事務局（予定）

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2004年12月18・19日 第10回漢魏石刻の会

2006年12月10日 第12回漢魏石刻の会

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

過去5年間で、本研究室在籍中に博士学位を取得したものは、3名にとどまる。彼らは、前期課程と通算して5年で、学位を取得したわけではない。2名は後期課程進学後6年目で、1名は、後期課程中退後研究生で、学位を取得したものである。本研究科では進学後3年以内での学位取得は実際には、かなり難しい。だが最低でも（留学期間を控除するとして）後期課程在籍を許される6年（表裏各3年）以内での、学位取得件数を、増加させなければならない（但し、現段階では在籍5～6年のものおよび大学院研究生計3名が学位論文準備中である）。

博士学位取得件数以前の問題として、後期課程在籍が3年以上であるにも拘わらず、いまだに学位取得執筆の前提である、論文2本の条件を満たしていないものが、若干名存在する事実も看過しえないが、本人の努力に俟たなければならぬ部分も多く、有効な解決方法を見出すには至っていない。

総体に後期課程院生の業績不足の遠因は、院生の多くが目前の論文のための事例検索を専らとして、論文執筆の一方で継続的に行われるべき基本史料の体系的解説を、おろそかにしている点に求められると思われる。たとえ当面の論文は完成できても、その作業が次のそれに連続しえず、主題もより一層の展開を達成しえない。これが実情であると思われる。また研究室内部での研究会、読書会等、院生が相互に刺戟し切磋しあう場が適正に機能しえていないことも遠因のひとつであろう。この点を考慮しつつ、以後指導に努めたい（いうまでもなく研究会等の活性化は、前期課程延いては学部生をも裨益する）。

この5年間における本研究室からの海外留学は4件にすぎない。それ以前に比べれば確実に増加したとはいえるが、決して十分な多数ではありえない。本研究室および本学図書館は、旧帝大以来中国文献を蓄積してきたから、留学が研究環境を劇的に好転させるとは思われない。だが語学力の大幅な向上およびなによりも中国人研究者との人脈形成は、長期的には個々の研究活動に有利に作用するのも確実であろう。短期的にも所謂「コミュニケーション能力」の獲得は、必ずしも良好とはいえない学術振興会研究員獲得状況を改善させるとも期待できる。今後、特に学術論文2本を執筆し、学位論文執筆資格を獲得したものには、積極的に留学を勧めてゆく。

Ⅲ 教員の研究活動（2004～2008年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

熊本崇「『帰田録』通判逸話攷」、『集刊東洋学』第92号、中国文史哲研究会、pp. 98-122, 2004年10月

熊本崇「周必大にみる南宋の出版——必大致仕後を中心に——」、『科研費・計画研究「宋代官僚体制の確立における出版の役割」報告書、2005.』

熊本崇「宋神宗官制改革試論——その職事官をめぐって——」、『東北大学東洋史論集』第10輯、pp. 175-266, 2005.』

熊本崇「宋執政攷一元豊以前と以後」、『東北大学東洋史論集』第11輯、pp.83-206, 2007年3月.』

熊本崇「宋御史台制度再攷——梅原郁氏の御史台理解をめぐって——」、『集刊東洋学』

100, 2008年10月(予定).

川合安「南朝貴族の家格」, 『六朝學術学会報』第5集, 六朝學術学会, pp. 75 - 85, 2004.

川合安「南朝官人の起家年齢」, 平成16年度東北大学教育研究共同プロジェクト成果報告書『東北大学歴史資源アーカイブの構築と社会的メディア化』, pp.38 - 51, 2005.

川合安「門地二品について」, 『集刊東洋学』第94号, 中国文史哲研究会, pp.41-62, 2005.

川合安「東晋琅邪王氏墓誌について」『東北大学東洋史論集』第11輯, pp.1-22, 2007年3月.

川合安「日本の六朝貴族制研究」『史朋』40, pp.114-126, 2007年12月.

川合安「『六朝貴族制』の学説史的研究」, 科研費・基盤研究C研究成果報告書, 2008年3月.

大野晃嗣「明清官僚制の基礎研究—「同年齒録」を中心として—」, 学位論文, 京都大学 2004年.

大野晃嗣「明代觀政進士制度に関する考察」, 『東北大学文学研究科年報』第56, pp.87-128, 2007年3月.

大野晃嗣「「同年齒録」が語る進士とその子孫」『集刊東洋学』第98号, 中国文史哲研究会, pp.63-81頁, 2007年10月.

大野晃嗣「明代の「官年」現象に関する一考察」『地方史の研究と新史料の発掘』国際シンポジウム予稿集 頁未定 2008年

見城光威(2004年4月~2007年3月, 助手)「宋太宗政權考(上)——唐宋變革期政治史研究の一つの試み——」, 『東北大学文学研究科研究年報』第55号, 東北大学大学院文学研究科, pp.29-62, 2005.

見城光威「宋太宗政權考(中)——唐宋變革期政治史研究の一つの試み——」, 『東北大学文学研究科年報』第56号, 東北大学大学院文学研究科, pp.61-86, 2007年3月.

小尾孝夫「試論南朝前期南徐州無実土僑郡県及僑県令職掌——從新東晋時期晋陵郡域上僑置無実土僑郡県下僑民的税組・役・征役負担問題来考察」, 第二届中国中古史中日青年学者聯誼会予稿集, pp.119-130, 2008年8月.

1-2 著書

なし

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 書評

川合安「精緻な官僚制度研究 窪添慶文著 魏晉南北朝官僚制研究」, 『東方』第280号, 東方書店, pp28 - 31, 2004.

川合安「羅宗真著 中村圭爾・室山留美子訳『古代江南の考古学—倭の五王時代の江南世界—』」(『唐代史研究』9、2006年7月、122~126頁)。

(2) 解説

川合安「中国古代商業に関する史料解釈」, 『人文科学ハンドブック』, 東北大学出版会, pp.152 - 155, 2005.

川合安「南朝」, 『中国歴史研究入門』, 名古屋大学出版会, pp.81 - 87・96 - 98, 2006.

(3) 事典項目

川合安「貴族国家」, 『歴史学事典 12 王と国家』, 弘文堂, 2005.

(4) その他

大野晃嗣「明清時代の『官僚制』」, 『歴史と地理 世界史の研究』(山川出版社), 2007年8月.

大野晃嗣「2006年の歴史学界・回顧と展望 明清」, 史学会, 『史学雑誌』116-5, pp221-230, 2007年6月.

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

川合安「南朝士族の等級」 第8回中国魏晉南北朝史学会 四川大学／中国 成都市 2004年7月21日.

川合安「日本の六朝貴族制研究」 第9回中国魏晉南北朝史学会 武漢大学／中国 武漢市 2007年10月19日.

小尾孝夫「試論南朝前期南徐州無実土僑郡太守及僑県令職掌」 第二届中国中古史中日青年学者聯誼会 北京大学／中国 北京市 2008年8月30日

(2) 国内学会

熊本崇「元祐の吏額房—宋三省制の一側面—」 第57回東北中国学会大会 北海道大学／札幌市 2008年5月24日.

川合安「門地二品について」 第53回東北中国学会 岩手大学／盛岡市 2004年5月29日.

川合安「史学の興隆と南朝貴族社会—「符牒の学」を中心に—」 第6回魏晋南北朝史研究会大会 お茶の水女子大学 2006年9月16日.

大野晃嗣「明代観政進士制度考」 第53回東北中国学会 東北大学／仙台 2005年5月28日.

大野晃嗣「明代の「官年」現象に関する一考察」 「地方史の研究と新史料の発掘」 国際シンポジウム 中国浙江省杭州市 2008年9月.

大野晃嗣「」 第四回「科举制與科举学」研討会 中国天津市 2008年10月(予定).

見城光威「『宋太宗実録』研究序説」 第53回東北中国学会 岩手大学／盛岡市 2004年5月30日

見城光威「開封尹時代の宋太宗」 第54回東北中国学会 東北大学／仙台市 2005年5月29日

小尾孝夫「南朝前期における南徐州無実土僑郡太守及び僑県令の職掌理解のための一試論」 2008年度東北史学会 秋田大学／秋田市 2008年10月5日(予定).

(3) 研究会

川合安「南朝官人の起家」 第10回漢魏石刻の会 東北大学／仙台市 2004年12月18日

川合安「東晋琅邪王氏墓誌の研究」 第11回漢魏石刻の会 北海道大学／札幌市 2005年12月26日.

大野晃嗣「思想史的社会史的史料としての科举答案に関する基礎的研究」 応用科举史学研究会, 第2回研究集会, 東北大学, 2006年12月.

大野晃嗣「歴史的資源としての漢籍」 第一回 歴史資源としての史料分析の現在, 東北大学, 2007年3月.

大野晃嗣「思想史的社会史的史料としての科举答案に関する基礎的研究」 応用科举史学会, 第五回研究集会, 東北大学／仙台市 2007年12月.

大野晃嗣「思想史的社会史的史料としての科举答案に関する基礎的研究」 応用科举史学会, 第一回ワークショップ 東北大学／仙台市 2008年8月.

2 教員の受賞歴（2004～2008 年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2004～2008 年度）

（1）科学研究費補助金

- ・ 平成 13～16 年度 課題番号 13021208 特定領域研究（A） 研究代表者：熊本崇 分担者：川合安・須江隆「東アジアの研究；計画研究「宋代官僚体制確立における出版の役割」 6,800,000 円（4 年間総額）
- ・ 平成 17 年度～19 年度 科学研究費 基盤研究(C) 研究代表者 川合安 「「六朝貴族制」の学説史的研究」 500,000 万円
- ・ 平成 18 年度～21 年度「思想史的社会史的史料としての科举答案に関する基礎的研究」 課題番号 18320014 基盤研究（B） 研究代表者：三浦秀一 分担者：熊本崇 分担者：大野晃嗣
- ・ 平成 19～21 年度 「中国近世における人事制度とその運用理念に関する基礎的研究—明清時代を中心として—」 若手研究（B） 研究代表者 大野晃嗣 平成 19 年度 1,000,000 円 平成 20 年度 1,170,000 円

（2）その他

なし

V 教員による社会貢献（2004～2008 年度）

- ・ 熊本 崇 2004 年度、東北史学会大会公開講演講師（「カニと通判—宋代文官優位の成立過程—」）、於東北大学
- ・ 熊本 崇 2004 年 8 月～2006 年 7 月、学術振興会特別研究員第一段階審査
- ・ 熊本 崇 2005 年度、高校出前授業 宮城県立宮城野高校（5 月）
岩手県立盛岡第一高校（10 月）
青森県立八戸高校（11 月）
- ・ 川合安 2005 年度 有備館講座「歴史」—東北大学大学院文学研究科市民のための公開セミナー第 4 回講師（「中国皇帝政治のしくみ」） 於岩出山町 有備館
- ・ 大野晃嗣 2007 年 9 月 福島県立安積高等学校「大学模擬授業」

- ・ 大野晃嗣 2008年6月 第七回有備館講座「『時代』を読む」第2回講座「科挙同期生の名簿から読む中国近世」講師
- ・ 大野晃嗣 2008年7月 東北大学オープンキャンパス 文学部公開授業

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2004～2008年度）

- 熊本 崇 東北中国学会理事 2005年から現在に至る
- 熊本 崇 東洋史研究会評議員 2002年から現在に至る
- 熊本 崇 東北史学会評議員 2003年から現在に至る
- 川合 安 東北史学会理事 2003年10月から現在に至る
- 川合 安 中国文史哲研究会常任編集顧問 2001年10月から現在に至る
- 川合 安 唐代史研究会幹事 2003年8月から現在に至る
- 川合 安 魏晋南北朝史研究会幹事 2004年9月～2006年9月
- 川合 安 東洋史研究会評議員 2006年11月から現在に至る
- 大野晃嗣 東洋史研究会評議員 2005年4月から現在に至る
- 大野晃嗣 中国文史哲研究会常任編集顧問 2004年10月から現在に至る
- 小尾孝夫 魏晋南北朝史研究会幹事 2008年9月から

VII 教員の教育活動（2008年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

熊本 崇教授

- 1学期 東洋近世史特論Ⅰ 宋元時代の諸問題Ⅰ
- 1学期 東洋近世史研究演習Ⅰ 宋元政治制度研究Ⅰ
- 1学期 課題研究
- 2学期 東洋近世史特論Ⅱ 宋元時代の諸問題Ⅱ
- 2学期 東洋近世史研究演習Ⅱ 宋元政治制度研究Ⅱ
- 2学期 課題研究

川合 安教授

- 1学期 東洋古代中世史特論Ⅰ 九品官人法研究史
- 1学期 東洋古代中世史研究演習Ⅰ 六朝礼制の研究Ⅰ
- 1学期 課題研究
- 2学期 東洋古代中世史特論Ⅱ 六朝社会の研究

2 学期 東洋古代中世史研究演習Ⅱ 六朝礼制の研究Ⅱ

2 学期 課題研究

大野晃嗣講師

1 学期 東洋近世史研究演習Ⅰ 明清官僚制度研究Ⅰ

1 学期 課題研究

2 学期 東洋近世史研究演習Ⅱ 明清官僚制度研究Ⅱ

2 学期 課題研究

2 学部授業担当

熊本 崇教授

3 セメスター 東洋史基礎講読 『資治通鑑』講読

4 セメスター 東洋史基礎講読 『資治通鑑』講読

5 セメスター 東洋史各論 宋元時代の諸問題Ⅰ

5 セメスター 東洋史演習 中国近世文献資料研究Ⅰ

6 セメスター 東洋史各論 宋元時代の諸問題Ⅱ

6 セメスター 東洋史演習 中国近世文献資料研究Ⅱ

川合 安教授

3 セメスター 東洋史概論 中国史概説

4 セメスター 東洋史概論 中国の歴史書

5 セメスター 東洋史各論 九品官人法研究史

5 セメスター 東洋史演習 晋代史料の研究Ⅰ

6 セメスター 東洋史各論 六朝社会の研究

6 セメスター 東洋史演習 晋代史料の研究Ⅱ

大野晃嗣講師

5 セメスター 東洋史演習 明清史料研究Ⅰ

6 セメスター 東洋史演習 明清史料研究Ⅱ

3 共通科目・全学科目授業担当

なし

(2) 他大学への出講 (2004~2008年度)

熊本 崇教授

- | | | |
|------|-----------------|--------|
| 1 学期 | 石巻専修大学経営学部・理工学部 | 2004 年 |
| 2 学期 | 石巻専修大学経営学部・理工学部 | 2004 年 |
| 2 学期 | 名古屋大学文学研究科 | 2004 年 |
| 1 学期 | 石巻専修大学経営学部・理工学部 | 2005 年 |
| 2 学期 | 石巻専修大学経営学部・理工学部 | 2005 年 |
| 1 学期 | 石巻専修大学経営学部・理工学部 | 2006 年 |
| 2 学期 | 石巻専修大学経営学部・理工学部 | 2006 年 |
| 1 学期 | 石巻専修大学経営学部・理工学部 | 2007 年 |
| 2 学期 | 石巻専修大学経営学部・理工学部 | 2007 年 |
| 1 学期 | 石巻専修大学経営学部・理工学部 | 2008 年 |
| 2 学期 | 石巻専修大学経営学部・理工学部 | 2008 年 |

川合 安教授

- | | | |
|------|--------------|--------|
| 1 学期 | 山形大学地域教育文化学部 | 2005 年 |
|------|--------------|--------|

大野晃嗣講師

- | | | |
|------|---------|--------|
| 2 学期 | 天理大学文学部 | 2004 年 |
|------|---------|--------|

小尾孝夫助手

- | | | |
|------|--------------|--------|
| 1 学期 | 宮城学院女子大学学芸学部 | 2008 年 |
| 2 学期 | 宮城学院女子大学学芸学部 | 2008 年 |